

淀川水系流域委員会 住民の意見を聴く会 結果概要

開催日時：2004年12月5日（日）13：30～17：40

場 所：カラスマプラザ 21 8階大・中ホール

参加者数：委員 25名、発言者 10名、一般傍聴者（マスコミ含む）154名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

○「住民の意見を聴く会」の概要

- ①ダム全般に関する発表と意見交換
- ②丹生ダム、琵琶湖に関する発表と意見交換
- ③一般傍聴者からの意見聴取（第1回目）
- ④大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発に関する発表と意見交換
- ⑤川上ダム、余野川ダムに関する発表と意見交換
- ⑥一般傍聴者からの意見聴取（第2回目）
- 最後に（ダムWGリーダー 今本委員）

「住民の意見を聴く会」の概要

芦田委員長より開催の挨拶が行われた後、三田村委員より本日の会の趣旨および進行について説明がなされた。公募によって選出された意見発表者10名から資料2「発言者から提供いただいた資料」をもとに各10分ずつご発言頂いた後、委員との意見交換が行われた。

（委員長の挨拶）

流域委員会は、丹生ダム、大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発、川上ダム、余野川ダムを河川整備計画の中でどう位置付けるべきか、意見を求められ、現在検討をしている。その中で、住民の方々の意見をお伺いするために、本日の会を開催した。お忙しい中、本日の会にお越し頂き、厚く御礼を申し上げたい。

ダム全般に関する発表と意見交換

近藤ゆり子氏「ダムは要らないー特に水資源機構ダムに関しての意見ー」（資料2-P1）、金屋敷忠儀氏「ダム無用論を憂う」（資料2-P11）、大賀須賀子氏「ダムに頼らず、どうすれば自然の恵みを効率よく利用できるのか、山と川と向き合って考えよう」（資料2-P12）の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・これまでの河川整備によって河川が良くなったと思われるか。治水や利水が向上したのは確かだが、河川環境は確実に悪くなった（ダムWGリーダー）。

- ←洪水が少なくなり、河川敷を利用する人が増えたという点では良くなった。環境については、例えば、河川の水質は河川管理者にはどうすることもできない。人間の生活が変化したことが主な原因ではないか（発言者）。
- ・資料 2 に「ダム築造を起爆剤として地域振興に役立っている例は多数あります」とあるが、具体的な事例を教えて欲しい（委員）。
 - ←大野ダムの築造に携わったが、この周囲に地元の方が桜を植えて、名所になっている。また、ダムによって周辺地域が鳥獣保護区となり水鳥が増えた例が、伊豆の伊東市の伊東大川のダムをはじめ、いくつもある（発言者）。
 - ・流域委員会では、ダム全般を不要としているわけではなく、個々のダムについて検討している。ダムはあくまでも選択肢の1つだと考え、検討を進めている（委員）。
 - ←流域委員会の早い段階から「ダムは原則として建設しない」としたのは問題だと考えている（発言者）。
 - ←「ダムは原則として建設しない」という結論は、委員会での議論があつて導き出された結果だ。ただし現在の流域委員会は、工事実施基本計画に引きずられた議論になっているように思える（発言者）。
 - ・現場で徳山ダム建設中止運動をしてこられたとのことだが、ダムの現場では何と何が対立して問題となっているのか、お聞かせいただきたい（委員）。
 - ←河川管理者自身も徳山ダムが無用だということは知っていると思うが、それでも建設が止まらない。長年に渡る計画を軌道修正するのはとても難しい。しかし、少なくとも白紙に戻すべきだ（発言者）。
 - ・ダムを考える際に、何に重点を置いて考えるべきか、ご意見を頂きたい（ダムWGリーダー）。
 - ←利水については「不要」という結論が出ているだろう。現在までに開発された水で十分に対応できる。治水については、100年単位で考えるべきことであり、予算をどのように使うかという点が重要だ。現在も堤防から漏水している箇所があり、そういった箇所に予算を追加投資していくべきだ。環境についてはもちろん重要だ。徳山ダム集水域は大型猛禽類の聖地であり、今後どうしていくのかという問題は残されたままだ（発言者）。
 - ・「ふるさと」という考え方を取り入れて河川整備をやっていけばよいと思う（委員）。
 - ←河川整備の難しいことはよく分からないが、感性で判断していけばよいのではないかと思っている（発言者）。

丹生ダム、琵琶湖に関する発表と意見交換

酒井研一氏「丹生ダム本体工事の早期着工・早期完成を」（資料 2-P17）、井上哲也氏『琵琶湖』の水位操作を改めて『琵琶湖』に戻し、適正に管理を」（資料 2-P27）の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・高時川は天井川であり、早急に何とかしなければならないのは事実だが、ダム完成を前提に30年以上前から河道整備が放置されてきたことも問題だろう。丹生ダムを建設するとしても10年かかるため、すぐにできることから始めることが肝要だと思っている。例えば、堤防強化について、どのようにお考えなのか、お聴かせ頂きたい（委員）。
 - ←高時川、姉川には堤外民地があり、これが河道整備を遅らせてきた原因でもある。また、河道内樹木や桑園等もあるので、これらが護岸整備の支障になってきたとも聞いている（発言者）。
- ・琵琶湖総合開発で丹生ダムを建設することに決まり、丹生ダムを前提として、平成6年のような渇水で琵琶湖水位が-150cm以下になるにもかかわらず、下流に40m³/sの水利権をあげた。下流の利水者がこの水利権を滋賀県に返還しないで、丹生ダムから手を引くというのは馬鹿げた話だ。淀川下流域の利水のためにも、人口が増加している滋賀県の利水のためにも、丹生ダムは必要だ（発言者）。
- ・高時川の治水には難しい制約条件もある。一方で、利水者が丹生ダム計画から抜けることが決定的となり、従来の計画どおりにはいなくなりつつある。この状況において、ダムWGにどのようなことを望むのか、お聴かせ頂きたい（委員）。
 - ←河川や地域によって状況は違う。個々の状況を見て、ダムの議論をして欲しい。「原則としてダムは建設しない」として議論するのは納得がいかない（発言者）。
- ・流域委員会では、琵琶湖の夏期の制限水位を元に戻してはどうかという議論をしているが、これについてはどのようにお考えか（委員）。
 - ←「人命を尊重し、財産を守る」ということ以上に素晴らしい自然保護や環境保全はない。地域住民のことも考えてもらわなければ困る（発言者）。
- ・琵琶湖の水位操作を改めていかなければならないという意見だったが、具体的にどう改めればよいのか、丹生ダムとの関係をどう考えればよいのか（委員）。
 - ←少なくとも、現在の水位操作は正しいとは思えないので、とりあえず以前の操作規則に戻し、その上で検討すべきだろう。うまくいっていない操作のまま議論をしても仕方がない。自然のリズムに戻すことが大切だが、その結果として治水リスクは高まる。しかし、琵琶湖の水位上昇によって死者は出ない。また、丹生ダム以外にもダムはあるのだから、それらのダムの有効な運用を精査が必要だと思っている（発言者）。
- ・次世代に何を残すべきとお考えか。例えば、白松青松の湖岸線以外に考えていることは（委員）。
 - ←琵琶湖は湖であって、ダムではない。ダムではなく、湖を残さなければならない。またその一方で、財政的な借金は残してはならない（発言者）。

一般傍聴者からの意見聴取（第1回目）

一般傍聴者3名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・日吉ダム等、運用中のダムやダム撤去の費用について精査が必要だ。また、住民の意見というのはよくわからない。住民はまだまだ本音を出していない。委員会は住民の意見をもっと引き出さないといけない。
- ・確かに天井川の近くで暮らす恐ろしさはわかるが、利水に関してはダムの必要性が失われつつある。それでもダムが必要だとお考えなのか。

←利水に関しては、これまでの計画どおりでお願いしたいと思っている。丹生ダムがなければ、異常洪水時に琵琶湖の水位低下を抑制できない（発言者）。

- ・資料2の3頁、参議院委員会議事録による質問者と説明者の議論の違いがみられるが、その際の説明者と同じ考えか。

←森林が保水するのではなく、山が保水する。森林が保水するという考えは正しくない（発言者）。

大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発に関する発表と意見交換

西村雅雄氏「大戸川ダム建設の必要性に関する意見」（資料2-P35）、藪田秀雄氏「環境と景観を取りもどし、子どもたちが遊べる宇治川を」（資料2-P43）の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・宇治川が危険な状態にあるというのは同感だ。宇治川が危険であるにもかかわらず、1500m³/sを流そうとしているのだから、相当の河道整備が必要ではないかと思っている（委員長）。

←確かに天ヶ瀬ダムを再開発し、塔の島地区の河道掘削を行えば、1500m³/s流すことはできる。大戸川ダムがなければ、1500m³/sの放流は当然必要だと思っている。そうでなければ、13号台風のような降雨では天ヶ瀬ダムがもたない（発言者）。

- ・各ダムの比流量が比較されているが、洗堰も同列で比較されている。確かに洗堰の危険性は理解できるが、洗堰を他のダムと同列で比較するのは適切とは言えないのではないか（ダムWGリーダー）。
- ・宇治川の景観が悪くなったというご指摘は確かに分かるが、今後の宇治川の景観をどのようにしていきたいと思っているのか、全体像を教えて欲しい。元に戻すために締切堤を壊すといった手段も必要だとお考えなのか（委員）。

←河道掘削を前提とした5つの工事によって宇治川の景観が破壊された。修復は宇治川本川を掘削すれば元へ戻せない。掘削しなければ元へ戻せる。掘削しない方法はないか、治水と景観を同時にクリアできる方法が求められている。まず、これ以上景観を破壊しないことが大切だ。修復について地元住民の意見を聴いて慎重に進めて欲しい。完全に元に戻すのは難しいかもしれないが、昭和30年頃の宇治川の写真を資料2に掲載しているので、これを参考にして欲しい（発言者）。

- ・確かに塔の島地区の景観は悪くなってしまった。ただ、現状においても、河道断面を

なだらかにすることで良い方向へ変わっていく可能性はあると思う（委員長）。

←護岸をなだらかにすることで水に親しむことはできる。まず治水を考えてから、環境や景観を手直しするというやり方では駄目だ。河川法は治水、環境を同時にクリアすることを求めている。景観や自然環境を踏まえた判断がいる。最近、景観について国の方で国民的位置づけがされている。塔の島周辺は世界遺産と一体となった価値がある。1500 m³/秒流すというのであれば、景観保全のための鹿跳溪谷バイパストンネル同様に、塔の島地区もバイパストンネルが検討できないのか。流域委員会のお知恵をいただきたい。（発言者）。

- ・天ヶ瀬ダムができてから、塔の島地区の河床低下はかなり進んでしまった。かつての宇治川にはもう戻らない。現在の状況からどのようにしていくのかを考えざるを得ないと思っている（ダムWGリーダー）。

川上ダム、余野川ダムに関する発表と意見交換

猪上泰氏「川上ダムに関する発言ー川上ダムの早期完成が不可欠ー」（資料 2-P64）、森本博氏「ダムの自然に対する負の効果」（資料 2-P66）、増田京子氏「そもそも余野川ダムは本当に必要だったのだろうか」（資料 2-P71）の発言が行われた後、委員との意見交換が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・川上ダムの地元の行政関係者として水没者対策等に直接関わってこられたとのことだが、川上ダム計画がこれほどまでに時間がかかっているのは、どこに問題があったと考えるか、お聴かせ頂きたい（委員）。

←水没地の方々の同意を得るのに時間がかかったことも原因の1つだろう。また、県や国にとっては一般事業の1つだが、町にとっては100年に一度の大事業だ。国と町の考え方の差もダム計画が長期にわたっている原因の1つではないかと思っている。しかし、国がやると決めた限りは、やって欲しい。そうでなければ、周辺整備事業も進まない。仮にダムを中止した場合に、水没者に対して誰が責任を取るのか。町では責任はとれない。ダムについては0か100しかない。結論は1日も早くお願いしたい。（発言者）。

- ・上野遊水地の整備も進んでいるし、私たちが再計算した岩倉峡の疎通能力と合わせれば、川上ダムなしでも大丈夫という結果が出た。河川管理者は水没者や地権者に対して上野遊水地と川上ダムはセットで行うと説明をしてきたが、河川管理者は水没者や地権者にお詫びをして、きちんとした説明をしていくべきだ（発言者）。
- ・一般傍聴者が主張している現在の岩倉峡の疎通能力に関しては、私も精査してみた。おそらく、主張されている通りの疎通能力にはならないだろう。確定した数値ではないという受け取り方をして頂きたい（ダムWGリーダー）。
- ・余野川ダムの存在意義は、これまでに治水・利水ともに二転三転しており、すでにダム計画の存在意義は失われてしまっている。最初の目的から二転三転したのは、ダム

建設の理由を後付けしようとしたからだと考えているが、すでにダム計画は破綻してしまっている（委員）。

一般傍聴者からの意見聴取（第2回目）

一般傍聴者2名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- 先ほど委員から「川上ダム計画に長い時間がかかっているのはなぜか」という質問があったが、それは下流の犠牲になるような治水計画に地元が協力できなかったからだ。岩倉峡の開削はできないから、川上ダムと遊水地で対応するというのが国土交通省の説明だ。川上ダム建設方針を早く示して欲しい。
- 宇治川の治水にとって、大戸川ダムも丹生ダムも必要だ。ダムはできるだけない方がよいが、必要な場所では必要だ。宇治川が破堤すれば、壊滅的な被害が発生する。100年、200年の見通しをもった上で検討して欲しい。また、現在の宇治川は放水路のようになってしまっており、子どもたちが近づけないような川になっている。これも考慮した検討が必要だ。

最後に（ダムWGリーダー 今本委員）

会の冒頭に「今さらなぜこのような会を開くのか」という質問があったが、ダム検討をより慎重に進めたいから、住民の皆さまからご意見をお聴きする会を開催した。ダムWGはこれから報告のとりまとめ作業に取りかかる。水没者やダムの地元住民の皆さまに比べれば、流域委員会の苦労など些細だが、真剣に取り組んでいきたいと思っている。第36回委員会（12/20）にダムWG報告（案）を提出する予定なので、皆さまからご意見やご批判を頂きたいと思っている。